

## 米国シカゴの全米社会科協議会（NCSS）で 経済広報センターの活動を紹介

—北米社会科教育関係者招聘プログラムフォローアップ—

経済広報センターでは、1980年から毎年、米国・カナダの中学・高校の社会科教員を招聘し、日本の教員・生徒との交流や企業訪問等の機会を提供している。これまでに来日した教員は約700名に上り、教員たちは帰国後、来日で得た知見を社会科の授業を通じて子供たちに広めている。今回も6月に米国から9名、カナダから1名を招聘した。

あわせて、毎年秋に開催される全米社会科協議会（NCSS）年次総会において、同招聘プログラムのPRや来年度の参加希望者の募集、日米交流に関する意見交換などを行っている。今回のNCSSは、11月30日から12月1日にかけてイリノイ州シカゴで開催され、米国とカナダから社会科教員ら4,300名が参加した。



PR活動の様子

NCSSの意見交換会で登壇した米メイン州エドワード・リトル高校のアリッサ・マククリーン教諭は、招聘による来日が初めての国外渡航であったと述べ、「日本では、



意見交換会登壇者（左から2人目がマククリーン氏）

大人も子供も、規律や礼儀作法を職場や学校、家庭で常に重んじており、他人への敬意や仕事への誇りが、安全で居心地のよい社会を支えている」との感想を披露。教員たちが歴史や地理を教えるうえで、自ら現地に赴いて見聞し体験することが重要と強調した。

今回シカゴでは、伊藤直樹在シカゴ総領事をはじめ、日本貿易振興機構シカゴ事務所、シカゴ日本商工会議所、シカゴ日米協会などの関係者らと面会し、招聘プログラムなど経済広報センターの日米交流活動を説明するとともに今後の連携などについて懇談した。

以上